

## 3.29 戦争法発動反対・国会前抗議集会

戦争法が施行された3月29日、「戦争法発動反対、戦争する国許さない」をスローガンに3万7千人が国会前に集まって怒りの声を上げた。その直後、シールズと学者の会の行動では、「みんなの暮らしに税金使え」、「誰も殺すな」、「憲法守れ」などのコールにつづいて、戦争法に反対する高校生のグループ「ティーンズソウル」の仙台市から駆けつけた高校1年の女子生徒は、おおよそ以下のようなスピーチを行った。(HT)

### ティーンズソウルからの訴え

私が、いま、ここに立っているのは、安倍政権に不安と強い怒りをもっているからだ。

去年の夏、仙台の小さなデモに学校帰りに一人で参加して以来、私は黙って見ているわけにはいかなかった。



昨年9月17日、参議院特別委員会で、委員長の声も聞こえない中、あるはずの総括質疑もなく、多数の力で安保法制は採決された。そして翌18日の深夜に強行採決された。

その場面をテレビのニュースで見て無力感苛まれながら、自分はどうすればいいのだろうと、いろいろ考えた。

しかし、自分の身のまわりで起きているこの現実には、見て見ぬふりは出来なかった。こうやって、ここに立って顔と名前を出して話をするには、とてもリスクがあるが、ここで言わなければ、誰かがやらなければ、この政権の暴走は止まらない。

まだ、まだ終わっていない。憲法違反を堂々とする現政権には断固として反対しつづけ、立憲主義をとり戻したい。私たち国民の意志を無視する安倍総理にこの国の未来を任せられない。

私たち若者の未来は私たち自身が声をあげないと、本当にとんでもないことになる。原発の問題などの処理しきれない問題を、後世に残していかなでほしい。私は脅しや脅迫には負けない。それは一人でないからだ。

絶対にあきらめず、学び考え、この先も、間違っていることは間違っていると訴え、声をあげつづけ、行動しつづける。

3月29日、私は安全保障関連法制の廃止と安倍政権の退陣を強く求める。